

第 11 回アジア輸出信用機関首脳会合 (RCG CEO Meeting)

共同声明 仮訳

2020年1月14日－16日 東京

1. アジア輸出信用機関 (ECA) の代表者たちは、2020 年 1 月 14 日から 16 日に東京にて開催された第 11 回 RCG CEO 会合に集った。今回の会合は、株式会社日本貿易保険の社長である黒田篤郎が議長を務め、アジアの 7 の ECA の代表者及びベルン・ユニオン事務局長である Vinco David 氏の参加の下で開催された。(参加者のリストは別紙を参照)
2. 本会合は 2008 年の金融危機に対応するため、当時のベルン・ユニオンの議長であり、独立行政法人日本貿易保険の理事長であった今野秀洋のイニシアティブで東京において第一回会合が開催された。それ以来、アジアの ECA は、アジア地域及び世界のその他の地域における貿易・投資の流れを維持するために、新たなイニシアティブやプログラムの提案を通じて積極的に金融危機に対応してきた。
3. アジア ECA を取り巻く環境は今や非常時ではないが、足元の国際金融市場は長期にわたる低金利政策による資金余剰にある一方、貿易摩擦や中東地域情勢の緊張化、欧州の景気後退等を背景に、世界経済は不透明感が高まっており、国際金融市場は不安定な動きを見せている。
4. こうした国際金融市場や世界情勢の動きは貿易投資のリスクを高め、アジア域内のみならず世界の貿易投資を減速させている。また取引信用市場のリスクキャパシティも縮減する可能性がある。BURCG 加盟機関が世界金融情勢に係るリスクについて共通認識をもち、貿易投資を維持、発展させるため協力関係を深めることは重要な局面にあるといえる。こうした中でアフリカを例に国内外の企業のビジネス展開の現状を踏まえ、新市場開拓に係る ECA の役割や、ECA 間での第三国協力についてのあり方を確認した。
5. 我々は今後のアジアにおけるエネルギー問題やエネルギーに係る地政学リスクについても議論を行った。2050 年までに世界のエネルギー需要は現在の 1.3 倍に増加するとみられており、増加分の 6 割は中国、インド、東南アジアなどで発生する¹。世界のエネルギー市場の重心がアジアにシフトしていく中で、タイ輸銀と NEXI とがミャンマーにおいてガス火力発電事業で協

力を行ったように、ECA として国連が SDGs で掲げる、「すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する」ことに貢献していくことの重要性を確認した。

6. 係る状況下で、我々は RCG の意義と役割について、精力的な議論を行った。CEO 会合発足当初から構築してきた、アジア再保険ネットワークは今や 16 の協定によって構成されている²。RCG のメンバーは、昨年一年間で合計 8350 億米ドルに及ぶ国際的な貿易・投資をサポートしており、このネットワークを活用してアジアに留まらず互いに協力してビジネスを行っていかねばならないことを確認した³。
7. 我々は、各国 ECA の代表であるとともに、一世界市民として世界情勢の変化に常に目を凝らしながら議論を続けていかねばならないことに合意し、次回の会合が Thai EXIM が議長となり、タイで開催されることを歓迎した。

¹ The Institute of Energy Economics, Japan (2019), “IEEJ Outlook 2020 —Coping with the increasingly challenging energy trilemma (3Es)—”.

² "RCG Members Reinsurance Agreements" shared in RCG meeting at Hyderabad Annual General Meeting 2019

³ BU Data Source